

環境と文化のむら 体験教室のご案内

- ミニ門松づくり①②③
 - ▶日時 ①12月15日(休) ②12月17日(出) ③12月18日(日)
 - ▶会場 環境と文化のむら (野鳥の森)
 - ▶時間 午前10時～正午
 - ▶参加費 500円 (小学生未満は無料)
 - 新年もちつき体験
 - ▶開催日 令和5年1月15日(日)
 - ▶会場 環境と文化のむら (野鳥の森)
 - ▶時間 午前10時～正午
 - ▶参加費 無料
- ※小学生未満のお子様は、保護者と同伴でお越しください。
- ※いずれも、開催日の1か月前から参加申し込みを受け付けます。

国民年金の加入手続き・保険料免除申請等の電子申請を開始します

国民年金第1号被保険者の資格取得・種別変更、保険料免除・納付猶予申請、学生納付特例申請については、マイナポータルを利用した電子申請ができるようになりました。申請には、マイナンバーカードが必要となりますが、マイナポータルの情報を利用してスマートフォンやパソコンで申請書等を作成することができ、紙の申請書より簡単に作成することができます。

また、申請結果もスマートフォン等で確認することができます。お手続きの際は、ぜひご利用ください。

詳しくは、日本年金機構のホームページをご覧ください。

消費税のインボイス制度に関する説明会を開催します

- 事業者の方を対象に、令和5年10月から実施される消費税のインボイス制度に関する説明会を開催します。
- ▶日時 11月10日(休) 午前10時30分～正午
 - ▶会場 八郎瀧町えきま交流館はちパル 交流ホール
 - ▶対象 個人、法人の事業者
 - ▶共催 八郎瀧町、井川町、五城目町、秋田北税務署
- ※来場の際は、マスクの着用と検温の実施にご協力をお願いします。
- ☎町税務課 (☎852・5144)

スマートフォン操作体験会の参加者を募集します

スマートフォンを使ってみたい、スマートフォンをもっと活用したいと考えている方向けに操作体験会を開催します。体験用のスマートフォンはこちらでご用意しておりますので、スマートフォンをお持ちでない方も、気軽にご参加ください。

1日2回開催を予定しており、1回目はスマートフォンを初めて触るような初心者の方向けの内容(本体の基本操作、電話のかけ方等)、2回目は少しレベルアップした内容(LINE、インターネット閲覧等)を予定しています。

- ▶開催日程 (1日2回開催) 11月29日(火) 午前11時～午後0時30分 午後1時30分～午後3時
- ▶場所 内川地区公民館
- ▶対象 県内にお住まいの65歳以上の方
- ▶定員 10人
- ▶参加費 無料
- ▶主催 秋田県

※参加を希望される方は、下記へ事前にお申し込みをお願いします。

☎☎特定非営利活動法人 あきたパートナーシップ(遊学舎) ☎829・5801 (受付時間:午前9時30分～午後6時)

募 モルック大会の参加者を募集します

モルックは1～12の数字が書かれた木の棒(スキットル)を30軒ほどの丸棒(モルック)を投げて倒す競技で、3人以上でチームを作り、設定された合計点に先に到達したチームが勝利となります。上位3チームには表彰と豪華賞品、全員に参加賞もあります。たくさんのご参加をお待ちしています!

- ▶期日 11月19日(出)
- ▶時間 午前9時受付開始 午前9時30分競技開始
- ▶会場 雀館運動公園グラウンド
- ▶内容 予選リーグの上位4チームで準決勝、決勝を行い、最終順位を決めます。

※申し込み時に3人のチームが作れない場合は、おひとりでも申し込みができます。当日、個人参加した方々でチームを作ります。

- ▶参加費 無料

☎☎五城目地区公民館 (☎852・4411)

全国一斉「女性の人権ホットライン」強化週間のご案内

法務局では、下記のとおり「女性の人権ホットライン」強化週間を実施し、皆様方からのご相談をお受けします。相談は無料で、人権擁護委員および法務局職員が担当させていただきます。相談内容についての秘密は厳守します。

- ▶日時 11月18日(金)～11月24日(休)
- 平日 午前8時30分～午後7時
- 土曜日、日曜日 午前10時～午後5時
- ▶相談窓口 女性の人権ホットライン (☎0570・070・810)

風力発電事業に係る計画段階環境配慮書を縦覧します

〔(仮称)三種五城目風力発電事業 計画段階環境配慮書〕の縦覧を以下のとおり行います。

- ▶縦覧期間 11月10日(休)～12月12日(月)
- ※意見書受付は12月12日(月)まで
- ▶縦覧場所 ①町住民生活課(町役場1階) ②内川地区公民館

※いずれも開庁・開館時間のみ

※電子縦覧(インターネットによる公表)も、以下のURLで行います。

→ <https://www.jre.co.jp/news/>

- 住民説明会を開催します
- ▶日時 11月27日(日) 午前10時～正午
- ▶場所 内川地区公民館 3階

☎ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社 担当 神山・關根・安東 (☎03・6455・4900)

犯罪被害者週間「県民のつどい」を開催します

誰もが、ある日突然、犯罪に巻き込まれ被害者、その家族・遺族になる可能性があります。この機会に、犯罪被害者等の「思い」に触れてみませんか。

- ▶日時 11月26日(出) 午後1時30分～午後4時
- ▶場所 秋田拠点センターアルヴェ 多目的ホールほか
- ▶定員 180人

☎県生活環境部県民生活課 (☎860・1522)

令和4年度 五城目町文学祭入選作品集

短歌

選者 永田賢之助 (秋田市)

入選一位『汗にじむ』

(八郎瀧町) 小柳文子

年子にて三人育てがむしやらに
駆けた思いに不揃いもあり
ねえ見てよ床屋帰りの孫の声
さわやか五分刈りハイ・グータッチ
待ち侘びる太鼓の響き盆踊り
ポスターのモデルしなよく踊る

評 日ごろの生活が率直に出ていて、すんなり心を打つ。がむしやらに育てたというが、不揃いには深い愛を感じたし、グータッチもいい幸せ家族。結びは盆踊り再開の期待感だ。

入選二位『蓮の季節に』

(八郎瀧町) 畑澤英子

蓮の葉の風にあおられ裏返る
無傷の玉はころがり落ちる
水面にはりつくように蓮若葉
つぼみのふくらみ夜明けにひらく
花終えて花托となりて朽ちてゆき
今沼底に沈まんとして

評 この一連には自然詠の持つ奥深い叙情が込められている。「無傷の(水)玉」、「はりつく若葉」、「沈まんと朽ちる花托」。多少の整理は在っても、見る目が澄んでいる。

入選三位『願い』

(五城目町) 荒川剛

ヒロシマの向こう側から来るニュース
堪えきれなく涙ながれる
仏間から聞こえる蟬の鳴き声は
亡父の叱る声と似ている
この空の平和を願う終戦日
雲をゆつくり追いかけてながら

評 不戦を誓ってから七十七年、忘れぬまいこの願い。特に「三首目は国民こそつての歌。また同等の秀歌として「道端の石仏」「秋」「春の大河」。総じて高いレベルの歌でした。

俳句

選者 岩谷塵外 (秋田市)

入選一位『生身魂』

(五城目町) 本間富子

詩の暗唱誰にも負けず生身魂
ときばきと夕餉の支度栗ごはん
ラジオ体操身を反らせば天高し

評 生身魂の元氣な姿を詠んだ句群。「一句目は「誰にも負けず」、「二句目は「ときばきと」に惹かれた。三句目は季語「天高し」により心地良い俳句に仕上がった。

入選二位『稔りの秋』

(三種町) 大沢弘子

千枚の稲田日ごとに色重ね
こおろぎや多弁の友に耳あずけ
望月や廻りに雲を寄せつけず

評 身辺の秋の風情を詠んだ句群。「一句目は大きな句柄に惹かれた。「二句目は蟋蟀を「多弁な友」と比喩したことが手柄。三句目は「雲を寄せつけず」の措辞が「望月」を際立たせた。

入選三位『感謝』

(五城目町) 畑澤トミ子

支えられこの地に根付き墓洗う
家族の和老いて楽しき心太
大稲田生きた証の底力

評 老後の安寧が感じられる句群。「一句目は「支えられ」に同様に根付いた感謝が込められている。「二句目は季語「心太」が適切。三句目は「生きた証の底力」の措辞が卓越である。

入選四位『白い涙』

(五城目町) 伊藤豊子

切られては枯梗の白き涙かな
溝萩の供華を豊かに夫の墓
水替えるたびごとこぼれ女郎花

評 花に託した夫への鎮魂歌。「一句目は「白き涙」が哀れである。「二句目は「溝萩」に実感が籠もる。「三句目は「水を替えるたび」に故人を偲んでいるのである。「女郎花」が涙を誘う。

川柳

選者 宮腰流木 (秋田市)

入選一位『明日の彩』

(五城目町) 大原みどり

陽だまりに二つの白いマグカップ
ちよとよい距離感お茶にしませんか
寄り添えば明日の彩は見えてくる

評 明日とは未来のこと。暖かくなったまりの話らしい。題が有る限り三句の連が分かりやすい。白は純粋を表す反面落胆でもあるが人情の起伏を語り合う姿が見えてくる。

入選二位『追憶』

(湯上市) 遊佐治

しがみつく愚かさ風も素っ気ない
火照るものまだあり翔んでみようかな
追憶は捨てると風に舞う未練

評 想い出を風の比喩によってスナナリ詠み上げている。題「追憶」に対する連から頷かせられるものがある。人生これから向かい風も追い風もありますがベテランは使い分けろ。

入選三位『つばやく』

(八郎瀧町) 桜庭高信

未来という星と重なり遠火花
背伸びせず自分らしさと向かい合う
輪の中で熱き心を語り継ぐ

評 つばやくは生きていく証へのステップ。心象から具象に持っていく句の構成が連に表れて分かりやすい謙虚に現実に向かい周りを大切にしている「こうとする気概を感じる。

入選四位『母』

(五城目町) 伊藤美千代

幸せの色で染めたい母の髪
奥の手がいつぱい出てくる母の愛
普段着のまんまでもいいよお母さん

評 幾つになっても母は心の中にいるもの、母への思い遣りと感謝の佳句。母への心理的表現が滲み出ている。三句の連が分かりやすい。川柳は分かりやすさに頷きと共感がある。

主催 五城目町教育委員会
五城目町芸術文化協会